

# 式 辞

冬が終わりを告げ、暖かい日差しに春の訪れを感じる頃となりました。この佳き日に、多数の御来賓をお迎えし、平成二十八年度卒業証書授与式を挙行できますことに、心から御礼申し上げます。

まず、保護者の皆様、本日は誠におめで

とうございます。体育会や合唱コンクール、生徒会やボランティア活動に、前向きに取り組める生徒達でした。同時に、その行事や活動を楽しむことが出来る生徒達でした。明るく穏やかで、後輩達に優しきを見せると同時に、仲間への気配りを忘れない、仲の良い生徒達でした。本校教育への御協力に感謝すると共に、皆様がお子様と歩んでこられた義務教育の九年間に、心から敬意を表します。

次に、地域の皆様、四十四名の生徒たちが今日の日を迎えられますのも、学校行事や授業への御支援、地域行事など活躍する場の御提供、また、日頃から生徒達を見守り、励ましてくださったお陰と、心から感謝しております。これからも伊里中学校の

生徒達をどうぞ宜しくお願いいたします。

そして、卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。学年にはそれぞれの色があります。私が皆さんに感じた色は空の青色です。この春のような温かい日差しを生まみ出す、ふんわりとした空色です。

修学旅行で訪れた長崎のホテル。ロビーに座っていると、一人集まり、二人集まり、気がつくとも私の周りのソファー全部に、誰かが座っていました。何を話したかは覚えていません。ただ、ふんわりと優しい気持ちになったことを覚えていきます。

平和会館で語り部の森内さんから、原爆の恐ろしさと戦争の愚かさを教えていただきました。皆さんの真剣に話を聞く態度も、平和の誓いもとても素晴らしいものでし

た。それに加えて、皆さんが修学旅行後に書いた御礼の手紙は、森内さんの思いをしつかり受け止めると同時に、森内さんの体や心を気遣う、心優しいものでした。

昨年度のチャレンジワーク後の手紙も、今年のハンセン病学習後の手紙も、先日のお給食調理場への手紙も、皆さんの手紙にはいつも優しさが溢れていると思いました。

その一方で、今年の体育会もA組、B組が、手に汗を握るデッドヒートを繰り広げました。気迫がぶつかり合い、作戦が交錯し、最後の最後までどちらが勝つか分からない勝負でした。それはやがて、一・二年生を巻き込む応援合戦にまで広がりました。見に来られた方々を、きつと魅了したことと思います。

素晴らしかったのは戦いだけではありません。開会宣言や閉会宣言、挨拶、選手宣誓、諸注意、準備運動、胸を張り、声を張る姿は、私たちが皆さんに求めたレベルを十分に超えていました。

ソーラン節の指揮や太鼓の迫力も、センターの天を突き刺すような手の挙げ方も、地鳴りがするような迫力ある演技も見事でした。ソーラン節は確かに伊里中学校の伝統になったと、誇りに思いました。

生徒会長を中心にして歌った校歌には、保護者や地域の方々も加わってくださいました。記念写真の撮影では、A組、B組関係なく、充実感一杯の笑顔が並びました。伊里中学校だけでなく、伊里地区全体の仲の良さや温かさを感じたひとときでした。

部活動も必死の姿を見せられました。あと一步、もう一步の部もありました。敗戦が決まった時の無念そうな顔、今も瞼に残っています。そんな中、県大会に進んだテニス部と卓球部、特に中国大会へあと一勝まで迫ったテニス部や、全国大会に進んだ備前ボーイズ、アヴァンサールFCの活躍は嬉しいことでした。皆さんの夢は後輩達がきつと果たしてくれることでしょう。

伊里中学校が大切にしているボランティア活動でも大活躍でした。私のトイレボランティアの先生は三年生の人達でした。試験週間中の芝生ボランティアに来てくれた人もいました。体育会や文化祭など、伊里地区の行事では、中学生らしい活躍を見せてくれました。地域や保護者の方々に御協

力いたただきながら取り組んだ熊本震災への募金十万円は、優しさ一杯の贈り物でした。

三年生が頑張り、一・二年生がその背中を追う。今年もそんな理想の姿を見ることができ、本当に感謝しています。来年度も今の一・二年生が、益々素晴らしい伊里中学校を創っていつてくれることでしょう。

平成二十九年、伊里中学校は伊里小学校と小中一貫教育校伊里学園として、新たなスタートを切ります。目指す生徒の姿は、

「故郷を誇りに思い、確かな学力・豊かな心・健やかな体で、未来へ飛躍する伊里の子どもたち」です。豊かな自然と閑谷学校や正楽寺など由緒ある歴史を持つ街、伊里。人々が優しく真面目で、子供と学校を大切にしてくださる街、伊里。皆さんが大人に

なった時、「自分の故郷は岡山県備前市の伊里だよ」と、胸を張って誇ってほしい。将来に向けて、社会で通用する賢さと、心の優しさと、心身の健康を身につけてほしい。そして、将来、世界や日本を股にかけて活躍するもよし、伊里に留まり、地域を盛り上げ、未来の伊里を担う子供たちを育てるもよし、それぞれが思いを持って未来へ飛躍してほしい。そう願っています。

皆さんは、小学校でも中学校でも、十分に頑張りました。その成果を財産に、更に大きく成長することを願っています。

改めて、御卒業おめでとうございます。皆さんの輝く未来を信じています。

平成二十九年三月十四日



備前市立伊里中学校長

金光一雄